



## 【しろがね特別支援学校のセンター的機能】

専門アドバイザーの仕事を紹介します



通常学級の授業を参観して、とても感動したことをお伝えします。

小学校3年生の社会科「食べ物の産地を調べよう」の授業を参観した時のことです。地元のスーパーで販売している食品は国内の様々な県が産地であることを、持参したスーパーの広告から学ぶ内容でした。

活動内容としては、①食品の産地が分かったら、配付された日本地図の該当する県のところに色を塗っていくことと、②表に、食品名と産地を記入することの2点でした。

教師の説明が終わった後、子どもたちから次々と質問が寄せられます。

まず、ある児童の「県は何色で塗りますか」の質問に対して、「黄、緑、赤で分けて（家庭科で既習した栄養素での分け方）」と教師が回答します。

すると、他の児童が「同じ県で、赤と黄色の両方のところがありますよ。

（米と野菜の産地が同じ県の場合、赤で塗るか、黄色で塗るかが分からない）」と質問します。

あるいは、他の児童の「アメリカと書いてある場合はどうしますか」の質問に、「アメリカや中国などの外国はプリントの左の枠に書いてね」と回答します。すると、「中国地方もありますよ」などと児童からの意見が続きます。すると、教師はクラスの子どもたちに「どう思いますか」と聞き返します。いろいろな意見が出て、深い学びをしているなと思いました。

教師の指示に対して、ただ従うのではなく、自主的、主体的に学ぼうとする児童の姿が見られ、分からないことは解決しようとする意欲と質問することを当然だと思うクラスの雰囲気素晴らしかったです。

このようなクラスは一朝一夕にできるものではありません。分からないことを質問することは真剣に授業を聞いていた結果であること、質問することは友達も分からないことなので人の役に立っていること、分からないことを解決しようとする意欲は次の学びにつながることを日頃から伝えているのだろうと、担任の努力が垣間見えた授業でした。

教師が目指したい子どもたちの姿を明確にすることが大切です。

## 校内研修等での講演会の予定

6月11日	高校入試に関するケース会議	渋川市内中学校
6月17日	「自閉症スペクトラム児の指導について」	前橋市内小学校
6月24日	「通常学級に在籍する気になる子への 指導・支援について」	渋川市内小学校
7月22日	「特別な支援を必要とする児童がいる通常 学級での指導・支援」	前橋市内小学校
9月 3日	「行動につまづきのある子と一緒のクラス 経営」	前橋市保育士会
10月21日	60分ケース会議	玉村町内小学校
11月21日	60分ケース会議	渋川市内小学校
1月20日	60分ケース会議	渋川市内小学校

## 相談依頼の件数（外部支援）4～10月の結果

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	183件	116件	15件	5件	5件	324件

（その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼）

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。  
障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について  
悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校  
 担当：専門アドバイザー 尾岸 純子  
 電話：027-268-6111  
 FAX：027-268-6113  
 メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp